

ONCC 12期生 てくてくウォーキング科
10月18日(金)

多田銀銅山遺跡探訪

夏の猛暑も一段落しウォーキングしやすい10月、兵庫県猪名川町の多田銀銅山探訪にいきました。多田銀銅山は、兵庫県川西市、猪名川町および大阪府池田市の広範囲にわたり平安時代頃から開掘されてきたといわれる鉱山遺跡で国の史跡に指定されています。

集合は阪急川西能勢口駅、そこからバスで猪名川町に到着、概要の説明を受け30分ほど歩き悠久の館に着く、途中のらせん階段は急勾配。



悠久の館で班ごとに分かれ探訪に出発

道ばたのシダに注目、ガイドさんの説明ではこのシダの葉の色から昔の山師がこの山に鉱物(銀、銅など)が埋もれていることを見いだしたという。すごい眼力ですね。





この遺跡の圧巻は青木間歩(間歩とは坑道のこと)、この遺跡では無数(一千箇所以上)の間歩が発見されているが中に入れるのはこの青木間歩だけ。



中はひんやりとしている。わずかな光を頼りに進む。明治以降機械掘りされたところの坑道は比較的広い。

壁には一部昔(平安～江戸時代)ののみ跡も残っている。豊臣秀吉はこの銀山に目をつけ直轄領として管理したという。江戸時代は銀の産出量も多かったそうです。



青木間歩の他に大きな間歩は台所間歩、瓢箪間歩等がある。



いずれも豊臣秀吉ゆかりの間歩で、名前の由来は大量の銀産出で幕府の財政に寄与したとか、瓢箪の馬印使用を許可したとかの言い伝えがあるとのこと。



瓢箪間歩で記念撮影。
右側後方に間歩の入口がある
ただし立ち入り禁止



間歩探訪のあとは悠久の館で遺跡関連の資料を見学。多田銀銅山で採掘された鉱石や、実際に鉱山で使用された道具、また、残されている古文書などをみました。江戸時代の代官屋敷などのジオラマも良かったです。



探訪終了後 昼食をとり解散となりました。皆さん今日はお疲れ様でした。

3班広報担当